

パブリックコメントで提出された意見の概要及び市の考え方

令和5年8月2日から令和5年8月31日までの間、第2期海津市創生総合戦略(改訂案)についてご意見の募集を行った結果、2件のご意見をいただきました。いただいたご意見について適宜要約したうえ、それに対する市の考え方を次のとおり公表します。貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。

No.	意見の概要	市の考え方
1	<p>○通学に特化したコミュニティバスを運行する 当市で大垣市内への通学が困難なのは、養老鉄道から遠い海津町、平田町に居住する住民である。 そこで、吉里地区、海西地区、輪之内イオン、福東大橋を經由し、国道258号線へ至り、大垣市浅草(大垣南高校)、市民病院前(大垣東高校)、楽田町(大垣北高校)、大垣商業高校といったコミュニティバス路線を新設することで、大垣市内進学校への通学を容易にできる。</p>	<p>本計画のP14「コミュニティバスの運行」の取組内容において、「高校生等の通学手段として充実を図る」ことを追加します。 なお、大垣市内の高等学校等への通学については、養老鉄道のほか、名阪近鉄バス海津線をご利用いただいております。まずは朝や夕方の時間帯の増便などを沿線自治体と連携して運行事業者に働きかけてまいります。</p>
2	<p>○近隣県への越県通学を実現する 岐阜県白川村では、富山県へ越県した通学が認められている。 当市は東海大橋を渡れば、名古屋鉄道の各駅が比較的近い場所に位置している。 一宮市内の公立高校に通学ができれば高校生の通学負担が軽減できる。</p>	<p>白川村の越県通学につきましては、近隣に高等学校がなく、生徒の通学に要する負担に鑑み、両県教育委員会の協議のもと、約40年前から距離の近い富山県立南砺平高等学校への入学が認められているものです。 本市はそのような状況になく、通学可能な高等学校が多数あることから、公立高校に係る越県通学は、容易ではないと考えます。</p>